

# 原告陳述

原告 浅田正文さん

## 1.はじめに (第 2 の人生が奪われた)

浅田正文と申します。福島県田村市都路町から 石川県金沢市へ避難し早くも2年5カ月に  
もなってしまいました。私の住んでいた所は、原発から 2.5 Km、緊急時避難準備区域に指  
定されていました。原発の無い世の中になることを祈り、願い、意見陳述します。

私は 18 年前に第二の人生を楽しむべく、早期退職し東京から福島県都路村 (みやこじむ  
ら) (現田村市都路町) に妻と移り住み、自給自足を目指した生活、山菜を摘み、冬には  
薪ストーブの暖かさに心も温まる生活をしていました。原発事故によりそれらが一瞬にし  
て奪い去られてしまいました。福 島へ戻ったとしても自給自足の「生き活きた生活」は  
望むべくもありません。今年 5 月の測定では、我が家の原木椎茸は6000ベクレル/Kg、我  
が家から150m程の杉林の空間線量は8  $\mu$  Sv/h の線量です。これは福井県の約100 倍もの放  
射線量です。

日を重ねるごとに心の中の奥深くに疲れが増しています。まるで出口の無いトンネルの  
中に放り込まれたようです。気持ちの浮き沈みが激しく、先の見えない不安定な精神状態  
が続いています。 気力が萎え無為な日を過ごしてしまうことが度々あります。不本意なが  
ら、告訴や裁判、脱原発運動、等に多くの時間を割き、私の願っていた生活とは全く別の  
ものになってしまいました。

## 2.写真 パワーポイントによる説明

福島での生活の一端と、原発事故後を写真でお示します。

秋 収穫の喜び!

稲架掛けにして 2 週間天日干し

田畑の土壌改良のための薫炭づくり

冬に向って蓄えた薪

国道 288 号線沿いに置かれた除染した土等 を入れたフレコンバッグ。空間線量 1.26  $\mu$   
Sv/h。この脇をクルマが往来する。

避難から 2 年 - 薪用材に積んであったキノコが . . .

岩井沢小学校校庭のフレコン . . .

郡山市の公園。除染報告看板。しかし 10 日後には早くも空間線量が上昇。

原木シイタケ。家から 15m位の林の中、空間

線量 0.83  $\mu$ Sv/h。6,000 ベクレル/Kg

### 3.事故直後の日本(総懺悔した?)

原発事故直後には、「生活スタイルを見直そう」「少しぐらいは我慢しよう」「こまめに節電しよう」等々の意見が新聞投書欄を賑わし、エレベーターの一部を止める等、日本中が総懺悔したかに思えました。私は言葉に尽くせない程の被害を受けていましたがこの事故がきっかけになり、日本が原発にさようならし、生まれ変わると信じ、原発事故の惨禍の中にあって希望を持ったものです。

原発事故の翌年1月に横浜で開かれた「脱原発世界会議」開会式で、小学校4年生10歳の冨塚悠吏君が「大切なのは、僕たちの命ですか、それともお金ですか」とスピーチしました。次に、その一部を紹介します。

冨塚悠吏(10歳) 2012-01-14「脱原発世界会議」開会式スピーチ:横浜

(略) 原発より安全なエネルギーがあると思います。そしてそのエネルギーは僕たちを苦しめることはないと思うのです。(略) 国の偉い人たちに言いたいです。大切なのは僕たちの命ですか。それともお金ですか。僕は病気になりたくはありません。僕には将来の夢があります。科学者などの専門家になって環境に優しいエネルギーの開発や、何か人の役に立つ仕事をしたいです。その夢をかなえるため僕は健康で暮らしたいです。ぜったあーい! 絶対死にたくはありません。

裁判官の皆さん、被告席の皆さん、10歳の小学4年生の声が届きましたでしょうか。

### 4.事故 1年後の日本(大飯原発再稼働)

それにも拘わらず、昨年6月30日に当時の野田首相は「大飯原発再稼働を<首相の責任>で判断したい。暫定基準でも安全なものは動かさなければならない」と言い、7月に大飯原発が再稼働してしまいました。国が責任を持った結果が、福島現在の姿なのにはです。

福島民報(2012-07-16)に「大飯原発再稼働」について11歳の小学生の佐々木駿君の投書が載りました。福島県で最大の読者を持つどちらかというと保守的な新聞です。タイトルは「外で遊べない・・・原発再稼働反対」です。その一部を紹介します。

佐々木駿(11歳)「福島民報」(2012-07-16)投書

大飯原発の再稼働が大きな問題になっています。僕は、大飯原発の再稼働について反対です。原発を再稼働すると、もし地震や津波が来て原発をおそったら放射能が漏れてしまうからです。これが第1の理由です。(略) 再稼働に反対する第2の理由は、昨年3月11日の大震災の時みたいに放射線を浴びて被ばくするという悲惨な経験を、大飯原発がある福井県おおい町などの人たちにはさせたくないということです。(略) だから僕は、あんな経験をさせる原発の再稼働に絶対に反対です。

このように 11歳の小学生がおおい町の皆さんに自分と同じ目に遭って欲しくないと訴えているのです。私たち大人は、この子どもたちにどのように答えればよいのでしょうか。目先の経済や生活のために、将来を担う子どもや次の世代のため に今できることは何でしょうか。福島の状態を見れば明らかです。

## 5.事故直後~3年目の福島

事故から 2年 5カ月経ちましたが、今も15万 人もの人々が避難生活を強いられています。福島県の事故関連死や自殺者は他県に群を抜いて多く1415人にもなっています。

(2013-06-18) 福島県発表。「事故による死者ゼロ」などととても言えるものではありません。報道されていませんが多くの方が心筋梗塞で亡くなられています。例えば、お隣のお爺さんも心筋梗塞でした(2012-01)。部活の最中の高校生も心筋梗塞でした(2012-02)。原発事故現場で重機運転中の女性も心筋梗塞でした (2012-03)。

私は福島の自宅に戻った後、風邪をひき易くなっていることに最近気がつきました。しかも治るのに数週間もかかっています。心筋梗塞や風邪は原発事故と医学的な因果関係があるかどうか分かりません。でも福島で明らかに起こっていることなのです。子どもの甲状腺がんが増加していますが、そのほんの一部が報道されているにすぎません。

靴を履けない子ども、直ぐ転ぶ子ども、扁平足の子ども、そして骨折が増えています。何故だか分かりますか。保育園へ通うのになるべく被曝させまいとして、自宅の玄関から保育園の玄関まで車で行くため、歩くことがめっきり減ってしまったのです。

## 6. 絶対安全 (“想定外”は許されない)

中央道トンネル天井板落下事故があった後に 「トンネル事故が怖くて今後トンネルを廃止しますか。原発も同じではありませんか」との新聞投書を目にしました。しかしトンネル事故と原発事故は影響の範囲が大きく異なります。原発事故は、どれ程確率が限りなくゼロに近づいても、距離の広がりや将来世代への影響を考えると事故が起こればその被害は無敵大です。原発を直ちに止めること以外に絶対的な安全はありません。

福井県でフクシマと同じことが起こったらどうしますか。前の世代から営々と守り引き継いできた、永平寺、戦国時代の史跡、東尋坊等々、が失われるばかりか、越前蟹・背子(せいこ)蟹・さより等北陸の美味しい魚が何もかも食べられなくなってしまいます。琵琶湖も汚れます。そして福井の皆さん、北陸の皆さんは何処へ逃げますか。事故が真冬の、吹雪の夜の、北西の風が吹く中で、幼いお子さんを連れての道路の渋滞を、想像してみてください。

## 7.おわりに (日本が生まれ変わるためにも)

疲れしました。こんな思いは私たち福島県民だけで十分です。私たちのような、「流浪の民」「原発難民」を再びつくってはなりません。

最後に福島県から山形県へ避難している小学生の作文を読ませて下さい。福島県自然保護協会機関誌「やえはくさんしゃくなげ」(2013-06)に載ったものです。

丸大喜 福島県自然保護協会機関誌「やえはくさんしゃくなげ」

<原文は「作文と教育」2012-11-01 N795 本の泉社>

(略) 今、ぼくの福島の家庭はじょせん作業をしています。土や葉っぱや川の水にさわることさえも注意しなければなりません。「なんで福島の子どもだけが、こんな思いをしなければならないのだろう。」こう考えると、ぼくは、とても悲しい気持ちになってしまいます。この大震災では、たくさんの悲しいことがありました。地震やつ波や原発事故で、なくなった人やけがをした人がたくさんいます。その人達のためにも、この経験をむだにしてはいけないと思います。(中略) この震災は これからもっともっとよりよい地球になるためにおきたことだと信じています。だから、ぼく達は、震災の経験をむだにせず、未来に向かって、ぼく達の手でよりよい地球をつくりだしていかなければならないと思います。

以上、避難生活3年目の気持ちを陳述しました。裁判官の皆様、被告席の皆様、どうか3人の小学生の心を噛みしめていただきたくお願い致します。